

第1回 佐伯市廃棄物減量等推進審議会議事録（抄録）

開催日時 令和7年11月13日（木） 10:00～11:50
開催場所 所在地 佐伯市東浜1番38号
会場名 エコセンター番匠 2階大会議室
出席者 委員14名のうち、13名出席（欠席：1名）
野崎部長、御手洗課長、吉岡補佐、羽明補佐、簀戸総括、栗津総括
傍聴者 0名（マスコミ関係者2名）

- 1 開会 市民生活部長による開会あいさつ
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 自己紹介 審議会委員及び清掃課職員
- 5 会長・副会長選出 会長：宮崎委員、副会長：大塚委員 を選出した。
- 6 会長あいさつ 宮崎会長によるあいさつ
- 7 議事 宮崎会長が議長となり進行した。

(1) 過去の審議内容

過去の審議会の開催内容について、事務局が説明を行った。

(2) 現在の状況

現在の分別品目及び収集体制・処理体制、あわせてごみ処理事業の歳出と歳入の状況について、事務局が説明を行った。

(3) 今後の課題

当面課題（①廃プラスチックの分別収集、②ごみ処理施設の将来方針、③ごみ処理手数料の見直し）について、事務局が説明を行った。

委員 「①について、回収実験で分別した廃プラスチックはエコセンター番匠で処理せず、再資源化施設で燃料化されたのであれば、エコセンター番匠で処理出来たのではないかと。現在はどうしているのか。」

事務局「実験時は、マテリアルリサイクルの受入先がなかったため、燃料化施設で処理した。通常時はエコセンター番匠で燃えるごみとして処理している。」

委員 「再資源化にもエネルギーが必要になると思う。また、プラごみの分別は、高齢化を迎える市民の手間や選別作業の人手不足なども考えられるので、プラ分別収集を進めるのはいかなものかと考える。」

事務局「プラ資源循環促進法では、努力義務となっており、市町村がごみ処理の計画の中で決定することとなる。今後の施設の方針なども踏まえながら研究していきたい。」

(4) その他

①リチウム電池等の回収実験、②指定ごみ袋のばら売り、について、事務局が説明を行った。

②については、「希望する店舗のみでばら売りを可能にする。（事務局案）」に対し、委員から意見を求めた。〔下記のとおり〕

最終的に事務局案への賛同者数は5名(13名中)であり、ばら売りに関しては否定的な意見が多かった。

〔各委員の主な意見〕

- ・バーコードがないとセルフ式のレジでは対応しづらい。手間がかかる。
- ・現在、個人商店などでばら売りしても罰則・ペナルティーはないのか。各店舗の責任の範囲内で対応できるのか。（事務局：箱単位での納品し、販売実績までは求めている。）
- ・店舗ではばら売りしても他市事例のようにニーズは少なく、レジ袋の削減効果はないと思う。
- ・レジ袋を忘れたときに1枚単位で買えるのは、メリットもある。市民側と販売店側で問題が無ければ良いと思う。
- ・レジ袋の有料化の環境への影響は（石油削減やCO2**排出より）海洋汚染減少の効果が高いと聞いている。指定ごみ袋をレジ袋の代用としてばら売りにした場合（有料化の効果が薄れ）例えば風に吹かれて海に運ばれ、新たな海洋プラスチックごみへと繋がる恐れもあり、それが佐伯市指定のごみ袋ともなると、いかがなものか。

③その他項目外の意見

委員 「会合の際、指定ごみ袋が破れやすいという意見があったので、現状はどうなのか。」

事務局「燃えるごみ用は、シャカシャカするタイプで高密度ポリエチレンを使用している。引張強度には優れているが、引裂きには弱い。ごみピット内である程度破れやすすないと、クレーンでの攪拌作業を何度も行うこととなり、焼却がスムーズにいかないため、現在 0.03mm の厚さとしている。見直しの際には材質も研究はしていきたい。」

4 その他（事務連絡等）

特になし

5 閉会 市民生活部長による閉会あいさつ